
平成26年度 事業報告書・概要版

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)



地方独立行政法人 神戸市民病院機構

1	市民病院の概要	1
2	病院ごとの取り組み	
	神戸市立医療センター中央市民病院	3
	神戸市立医療センター西市民病院	9
3	優秀な職員の確保と人材育成	15
4	経営状況について	17
5	中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進・市関連病院との連携・ 神戸医療産業都市における役割	19
6	平成26年度 事業報告書・概要版 用語解説	20

※ 本文のグラフや表における「H」表記は当該年度を表します

神戸市立医療センター中央市民病院

◆病院の特徴と役割

救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、初期救急まで幅広く患者を受入れました。

また、地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組むとともに、がんセンター、脳卒中センターといった高度専門医療センター、高度医療機器の導入等を必要に応じて行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行いました。



◆病院概要

項目	
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目1番地の1
許可病床数	700床（うち感染症10床）
診療科	循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科、新生児科、皮膚科、外科、移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、臨床病理科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急科、総合診療科
主な役割及び機能	<ul style="list-style-type: none"> 救命救急センター指定病院 第1・2種感染症指定医療機関 地域がん診療連携拠点病院 臨床研修指定病院 卒後臨床研修評価機構認定施設 総合周産期母子医療センター 災害拠点病院 地域医療支援病院 病院機能評価認定施設

◆病院の基本理念と基本方針

【基本理念】

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供します。

【基本方針】

- ①患者の生命の尊厳と人権を尊重します。
- ②十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供します。
- ③基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組みます。
- ④24時間体制での救急医療を実践します。
- ⑤医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図ります。
- ⑥地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進めます。

神戸市立医療センター西市民病院

◆病院の特徴と役割

市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行いました。

また、平成27年1月には「神戸市災害対応病院」の指定を受け、病院全体の災害対策における体制強化を図りました。



◆病院概要

項目	
所在地	神戸市長田区一番町2丁目4番地
許可病床数	358床
診療科	消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、臨床病理科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科
主な役割及び機能	<ul style="list-style-type: none"> 2次救急対応 地域医療支援病院 高齢者医療の充実 臨床研修指定病院 神戸市災害対応病院（平成27年1月指定） がん診療連携拠点病院に準じる病院 在宅医療の充実 病院機能評価認定施設

◆病院の基本理念と基本方針

【基本理念】

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

【基本方針】

- ①患者の人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
- ②安全管理を徹底し、患者に満足される医療を提供します。
- ③救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
- ④市民病院群の連携を図り、高度・専門医療を充実させ、急性期病院を維持します。
- ⑤地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
- ⑥医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
- ⑦職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

神戸市立医療センター中央市民病院

1. 市民病院としての役割の発揮

◆◆救急医療◆◆

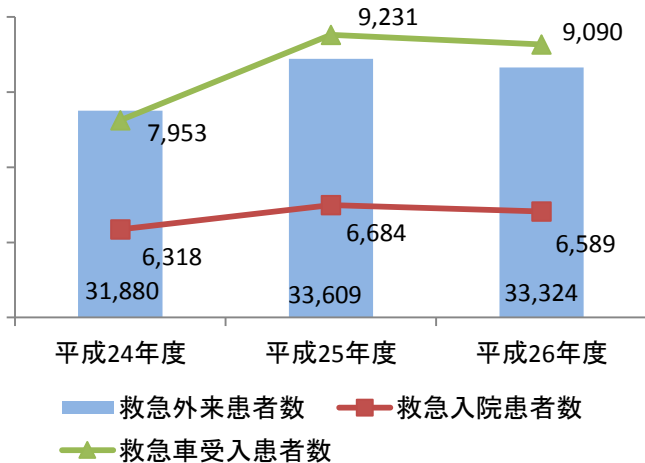
◆救命救急センターにて24時間体制の救急医療を継続し、緊急度と重症度に応じた、より迅速かつ的確な治療及び処置を行い、「断らない救急」の実践に努めました。

◆平成26年6月には産科ホットラインの運用を開始し、10月からは小児科ホットラインの運用も開始し、受入れ体制の強化を図りました。

◆ECMO(体外式膜型人工肺による治療)チームを結成し、より高度で専門的な医療の提供を行える体制を整備し、治療を行いました。



救急患者数の状況（人）

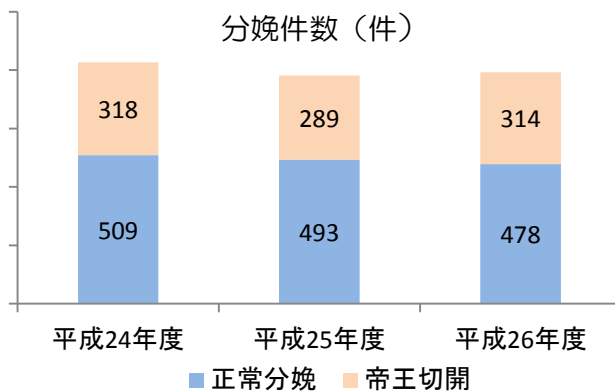


◆◆小児・周産期医療◆◆

◆平成25年4月に指定を受けた総合周産期母子医療センターの運営を継続し、ハイリスク妊娠や高度な新生児医療に対応しました。

◆小児科・産科共同の事例検討会等を開催し、産科・新生児科・小児科が一貫した医療体制を提供しました。

分娩件数（件）



◆◆災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療◆◆

◆災害拠点病院として、緊急時に対応できるように、災害訓練の実施や対応マニュアルの整備等に引き続き取り組みました。また、平成26年度は、移転後初となる全部署参加の防災避難訓練の実施や、昨年度と比べ災害研修等に積極的に取り組み、職員の意識向上に努めました。

◆感染症医療については、エボラ出血熱等の新興感染症に対する研修の実施や対応マニュアルを作成し、患者受入のための体制を整備しました。

2. 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

◆◆高度医療及び専門医療の充実◆◆

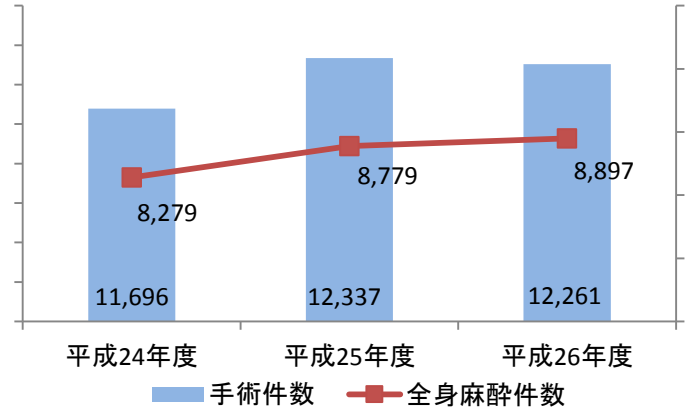
◆平成25年度末より導入した手術支援ロボット「ダヴィンチ」・TAVI（経カテーテル大動脈弁治療）を使用し、より高度で専門性を必要とする疾患に対応しました。

◆高度医療機器による検査や患者に負担の少ない手術に引き続き積極的に取り組みました。

【がん内視鏡下手術件数(件)】

H24	H25	H26
248	218	370

手術件数及び全身麻酔件数（件）



◆◆5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患）への対応◆◆

◆従来のカンサーボード等をがん拠点病院運営委員会に再編し、がん診療体制を強化しました。

◆がん相談体制を強化し、がん相談件数が大幅に増加しました。

【がん相談件数(件)】

H24	H25	H26
284	292	468



手術支援ロボット「ダヴィンチ」

◆◆チーム医療の実践及び専門性の発揮◆◆

◆平成26年5月より、救急病棟等に専従の理学療法士、作業療法士を配置し、医師や看護師との情報共有を行い、早期からのリハビリテーションに努めました。

【院内の主なチーム】

- ・NST（栄養サポートチーム）
- ・摂食嚥下サポートチーム
- ・褥瘡対策チーム
- ・口腔ケアチーム
- ・せん妄チーム
- ・緩和ケアチーム
- ・呼吸管理サポートチーム
- ・フットケアチーム ・精神科リエゾンチーム
- ・HIV/AIDSサポートチーム
- ・感染管理チーム（ICT）

◆◆臨床研究及び治験の推進◆◆

◆医療統計学の専門性を有する薬剤師を治験・臨床試験管理センターに配置し、臨床研究データマネジメント業務の確立を目指して、システムの構築について検討を行いました。

◆先端医療センター臨床研究支援部に薬剤師を派遣して連携を強化し、治験・臨床研究推進体制の構築に向けた業務を開始しました。

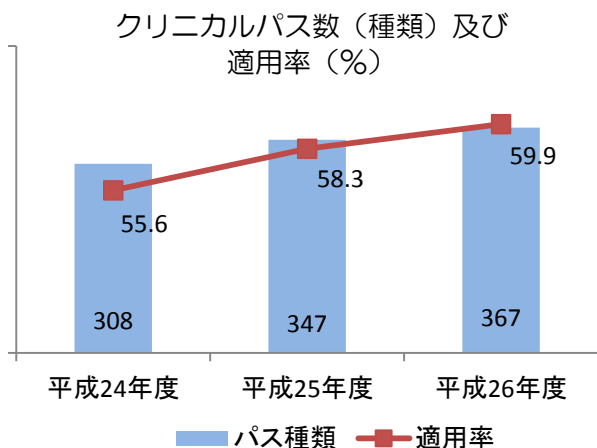
神戸市立医療センター中央市民病院

3. 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

◆◆医療の質を管理することの徹底◆◆

◆クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）委員会内の「アウトカム・バリエーション分析チーム」において、クリニカルパスから外れた症例の分析を行うとともに、院内講演会等を行い医療の質の標準化を図りました。

◆平成26年度診療報酬改定に関し、改定前後における収入の比較分析及びDPCを用いたクリニカルパス分析を行いました。



◆◆医療安全対策及び医療関連感染対策の強化◆◆

◆平成26年度より、感染管理専従看護師を2名に増員し、サーベイランスの強化を図りました。

◆院内ラウンドや手指消毒アルコール製剤の使用量を確認する等、手指衛生の励行に努め、平成25年度に比べ手指衛生の実施回数が増加しました。

◆医療安全・感染対策について、院内研修会を積極的に開催し、職員の知識向上に努めました。

【職員研修会の主なテーマ】

○医療安全

- ・ TeamSTEPS
- ・ MRI 高磁場体験
- ・ 暴力行為等への対応

○感染対策

- ・ 手指衛生から始める感染対策
- ・ HIV感染症/AIDSの診療の基礎知識
- ・ 神戸市の結核発生状況と院内感染対策

◆◆法令及び行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底◆◆

◆中央市民病院薬剤部門システム開発にかかる収賄事件を受け、コンプライアンス推進本部を設置し、全所属長に対して、コンプライアンス推進室長による倫理規程遵守の研修、外部講師によるコンプライアンス研修を実施しました。さらに職場内研修にもコンプライアンス研修を組み込み、全職員がコンプライアンスの重要性について認識・実践するための対応を行いました。

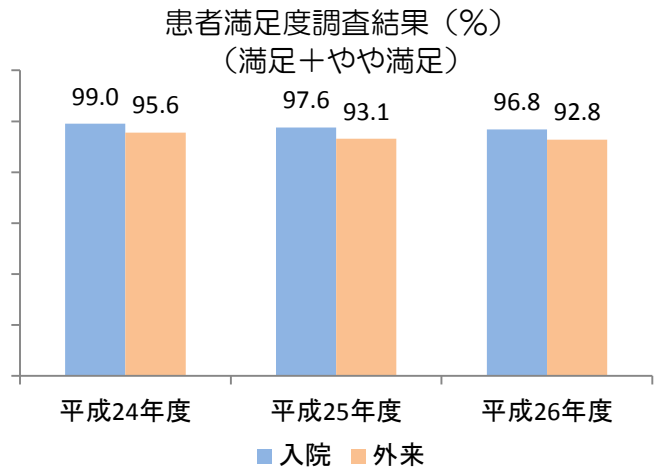
◆情報セキュリティの強化を図るため、情報セキュリティ委員会において決定した監査実施計画に基づいた監査を実施しました。

◆監事監査及び会計監査人監査を引き続き実施し、決算監査における指摘事項等について対応及び報告を行い改善しました。

4. 市民及び患者とともに築くやさしい病院

◆◆患者のニーズに応じたサービスの提供◆◆

- ◆患者満足度調査等により患者のニーズの把握に努め、外来部門や手術待合でのBGMの放送や座りやすいソファの設置等、待ち時間環境の改善を行いました。
- ◆患者サービスの向上を図るため、朗読や合唱等の院内コンサートを引き続き開催しました。
- ◆平成24年1月より導入している通訳者が同行する医療通訳派遣制度に加え、平成27年1月より緊急時でも利用できる電話医療通訳システムを導入しました。



◆◆市民及び患者へ開かれた病院◆◆

- ◆平成27年2月より、がん患者や家族からの相談に応じる「がん相談室開放日」を設け、相談支援を行いました。また、がん患者や家族を対象にした「がん市民フォーラム」を4回開催したほか、3月からは「がんサロン」の試行実施を開始しました。
- ◆患者向け広報誌の発行や、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士による患者向け教室を引き続き開催し、患者への情報提供を行いました。

【医療通訳派遣実績(件)】

H24	H25	H26
4	49	84

※主な言語:中国語、英語



◆◆病院創立90周年を迎えました◆◆

中央市民病院は、市立神戸診療所の開院（大正13年3月）以来、平成26年度で病院創立90周年を迎えました。

記念事業としてパネル・年表展示及びパンフレットの配布を行いました。これらの展示については、患者をはじめ一般の方にも幅広くご覧いただけるよう、平成26年10月8日より、1階正面玄関付近に一般公開を行いました。



神戸市立医療センター中央市民病院

5. 地域医療連携の推進

◆◆地域医療機関との更なる連携◆◆

- ◆医療機関の役割に応じた患者の紹介・逆紹介の推進に引き続き取り組みました。
- ◆病病連携の強化のため、中央区内の連絡調整や情報交換の場として、神戸市中央区地域医療連携部門連絡協議会の世話人としての活動及び協議会へ参加しました。
- ◆後方支援病院との連携会議を継続実施し、医師同士の具体事例を踏まえた協議をする等、情報交換を行いました。また、後方支援病院に呼吸器内科の医師を派遣し、連携の強化に取り組みました。
- ◆地域医療機関との連携強化のため、病診連携アンケートの実施や、地域医療機関への訪問や来院時の面談を積極的に行いました。また、地域合同カンファレンスを引き続き開催し、地域の医療従事者へ情報提供を行いました。
- ◆神戸市医師会、中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター、神戸市との共催で病診病病連携学術集談会を開催し講演会や意見交換等を行いました。



◆◆在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化◆◆ 【退院調整実施件数(件)】

- ◆退院前カンファレンスを継続して開催する等、地域の在宅介護支援事業所等との連携強化に取り組みました。

H24	H25	H26
1,416	1,446	1,485

◆◆職員寮の新築・移転を行いました◆◆

職員寮の新築・移転に伴い関係機関等との調整を進め、平成26年11月に“新港島寮”が完成しました（総数198戸（看護職員用120戸、初期研修医用36戸、後期研修医用42戸））。医師や看護師の居住環境を整え、優秀な人材の確保を図っていきます。

また、“新港島寮”は中央市民病院に隣接しており、災害時の待機宿舎としての位置づけも持ち、非常時のすみやかな病院への参集に対応していきます。



◇◆数値目標の達成状況◇◆

□ : 年度目標達成

	H25年度実績	H26年度目標	H26年度実績
紹介率	56.8%※1	55.0%※1 (50.0%) ※2	54.1%※2
逆紹介率	88.3%※1	84.0%※1 (70.0%) ※2	111.8%※2
クリニカルパス適用率	58.3%	60.0%	59.9%
単年度資金収支	2,290百万円	1,355百万円	1,375百万円
経常収支比率	102.5%	100.2%	100.1%
病床利用率	93.8%	93.5%	92.9%
給与費比率	43.5%	45.2%	45.8%
材料費比率	30.0%	29.0%	29.8%
経費比率	19.4%	20.0%	18.7%

※1 平成25年度実績及び平成26年度目標の上段は旧基準の地域医療支援病院算定式によるもの。

※2 平成26年度目標の下段（ ）内及び平成26年度実績は新基準の地域医療支援病院算定式によるもの。

◇◆主な指標の推移◇◆

	H25年度実績	H26年度実績	前年度比
稼働病床数	700床（うち感染症10床）		—
新入院患者数	20,847人	20,983人	136人
延入院患者数	236,352人	233,978人	▲2,374人
入院患者数/日	648人	641人	▲7人
初診外来患者数	90,157人	87,345人	▲2,812人
延外来患者数	468,900人	469,642人	742人
外来患者数/日	1,922人	1,925人	3人
平均在院日数	11.3日	11.2日	▲0.1日
入院単価	87,753円	90,438円	2,685円
外来単価	16,321円	16,869円	548円
手術件数	12,337件	12,261件	▲76件
医業収支比率	96.9%	96.1%	▲0.8%

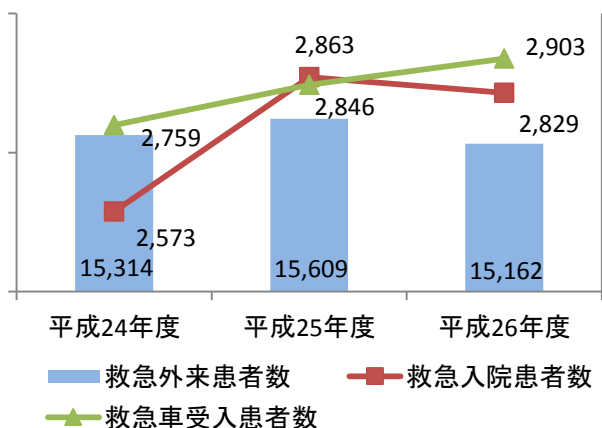
神戸市立医療センター西市民病院

1. 市民病院としての役割の発揮

◆◆救急医療◆◆

- ◆平成25年9月より全面再開を果たした毎日24時間救急医療について、平成26年度も継続して着実に提供を行いました。
- ◆救急担当医に加えて総合内科医師が支援する体制、救急病棟への看護師の配置(昼間)及びトリアージ専任担当者の配置を継続することにより、救急患者受入れの円滑化を図りました。

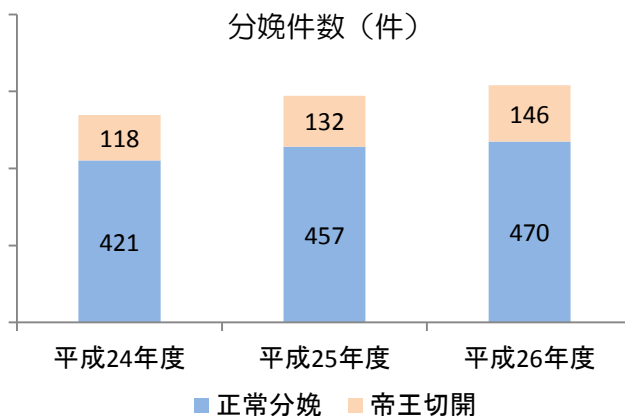
救急患者数の状況（人）



◆◆小児・周産期医療◆◆

- ◆周産期センターを中心として引き続き周産期医療を安定的に提供し、正常分娩を中心にリスクの高い分娩にも対応し、年間の分娩件数が過去最高となりました。
- ◆小児科医師を増員し、専門外来の設置等診療体制の充実を継続しました。

分娩件数（件）



◆◆災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療◆◆

- ◆神戸市地域災害救急医療マニュアルにおける災害発生時に患者の受入れや避難救護所等への備蓄医薬品等の提供を行う「神戸市災害対応病院」に平成27年1月に指定され、必要な医薬品等の備蓄を行いました。
- ◆災害対策の検討・実践を行う「災害対策チーム」を立ち上げ、災害訓練に積極的に取り組み、職員の意識向上に努めました。
- ◆感染症医療については、エボラ出血熱が疑われる患者が来院した際の初期対応に備え、新たに感染管理マニュアルを作成するとともに、個人防護服の着脱研修を実施する等、対策を講じました。

災害訓練の様子

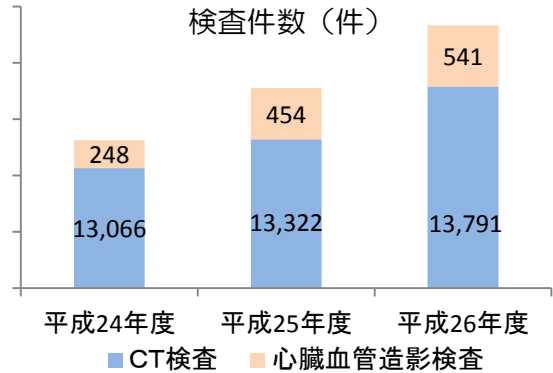


2. 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

◆◆医療需要に応じた医療の提供◆◆

◆平成26年4月より、循環器内科医師を1名増員し、円滑な救急受入れや、午後のみを実施していた検査を午前にも対応する等、循環器内科の体制を強化しました。

◆平成26年6月、増加傾向にあるCT検査に対応するため、CTの増設を行い検査体制の充実を図りました。



◆◆5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患）への対応◆◆

◆平成25年4月より本格始動した、病院と診療所が協力して糖尿病患者の治療にあたるK o b e DM n e t（神戸糖尿病地域連携パス）において引き続き連携実績を積みました。

◆◆チーム医療の実践及び専門性の発揮◆◆

◆チーム医療推進のための院長ヒアリングを実施し、各チームの目標や今後の課題について情報共有を行い、活動の促進を図りました。

◆より治療効果を上げるために、リハビリテーション技術部を新設し、土曜日のリハビリテーション診療を試行的に開始しました。

◆平成25年度に引き続きチーム会の活動を紹介するため、チーム医療発表会を開催しました。

【院内の主なチーム】

- NST（栄養サポートチーム）
- 褥瘡対策チーム
- 緩和ケアチーム
- リエゾンチーム
- 糖尿病チーム
- 感染管理チーム（ICT）
- 呼吸管理チーム
- CPR（心肺蘇生法）チーム
- 禁煙チーム
- 改善活動チーム

◆◆臨床研究及び治験の推進◆◆

◆新規職員を対象に臨床研究等に伴う倫理や病院の取り組みについて説明を行い、また、院内イントラネットにも臨床研究に関する倫理指針等を掲載し、随時閲覧できるようにしました。

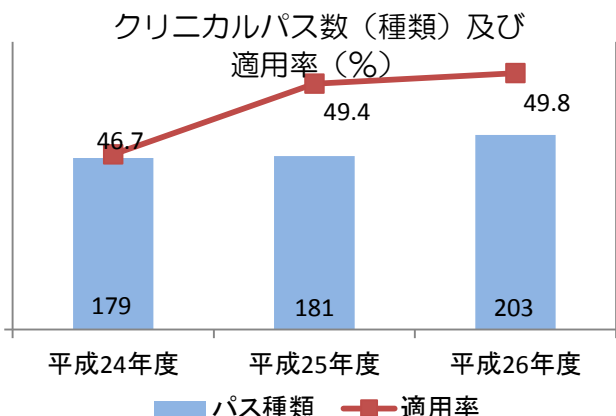
◆平成25年度に改訂した標準業務手順書を活用し、治験増加の際には治験コーディネーター（CRC）と連携しスムーズに開始ができるよう効率的な運用を継続しました。

神戸市立医療センター西市民病院

3. 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

◆◆医療の質を管理することの徹底◆◆

- ◆クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）委員会を継続開催し、適用率向上に向けた働きかけや、パスの内容の精査や新しいパスの提案等、医療の質の標準化を図りました。
- ◆病院全体及び各診療科の収益や手術件数等の分析を行い、院長ヒアリングにおいて改善提案を行いました。



◆◆医療安全対策及び医療関連感染対策の強化◆◆

- ◆院内ラウンドや手指消毒アルコール製剤の使用量を観察する等、手指衛生の励行に努め、平成25年度に比べ手指消毒アルコール製剤の使用量が増加しました。
- ◆医療安全・感染対策について、院内研修会を積極的に開催し、職員の知識向上に努めました。
- ◆麻しん患者の受診に伴い、麻しん排除に向けた積極的疫学調査ガイドラインに基づき、院内での対策を講じました。

【職員研修会の主なテーマ】

- 医療安全
 - ・薬剤によるアナフィラキシー
 - ・医療判例に学ぶ
 - ・連携による暴言・暴力対応について
- 感染対策
 - ・手指衛生について
 - ・抗菌薬の適正使用について
 - ・ワクチン接種について

◆◆法令及び行動規範の遵守の徹底◆◆

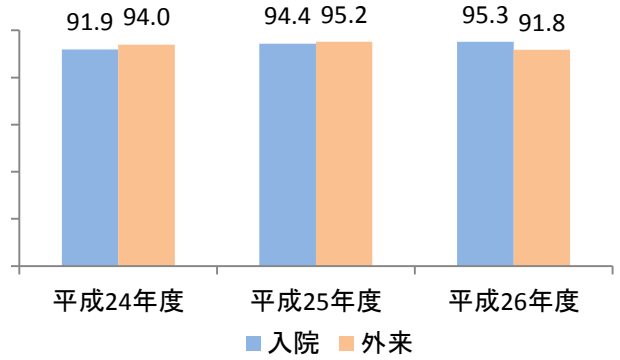
- ◆中央市民病院薬剤部門システム開発にかかる収賄事件を受け、コンプライアンス推進本部を設置し、全所属長に対して、コンプライアンス推進室長による倫理規程遵守の研修、外部講師によるコンプライアンス研修を実施しました。さらに職場内研修にもコンプライアンス研修を組み込み、全職員がコンプライアンスの重要性について認識・実践するための対応を行いました。
- ◆情報セキュリティの強化を図るため、情報セキュリティ委員会において決定した監査実施計画に基づいた監査を実施しました。また、医療情報委員会において情報セキュリティ関係規程集を作成し、職員へ周知を行いました。
- ◆監事監査及び会計監査人監査を引き続き実施し、決算監査における指摘事項等について対応及び報告を行い改善しました。

4. 市民及び患者とともに築くやさしい病院

◆◆患者のニーズに応じたサービスの提供◆◆

- ◆患者満足度調査等により患者のニーズの把握に努め、適宜改善を行いました。
- ◆平成26年7月には、毎年恒例の夏祭りを開催し、地域の方々・入院患者や家族等に参加いただきました。
- ◆6階庭園の緑化リニューアルや1階周りの植栽を行い、緑化推進や環境整備に取り組みました。
- ◆平成26年度より、ボランティア活動に参加しやすいよう、ボランティアの処遇改善を図りました。
- ◆平成24年1月より導入している通訳者が同行する医療通訳派遣制度に加え、平成27年1月より緊急時でも利用できる電話医療通訳システムを導入しました。

患者満足度調査結果 (%)
(満足+やや満足)



【医療通訳派遣実績(件)】

H24	H25	H26
26	26	113

※主な言語: ベトナム語

夏祭りの様子



◆◆市民及び患者へ開かれた病院◆◆

- ◆患者向け広報誌の発行や、医師・看護師・メディカルによる患者向け教室を引き続き開催し、患者への情報提供を行いました。

◆◆電子カルテを導入しました◆◆

平成25年12月のオーダリングシステム及び各部門システムの更新に引き続き、院内で電子カルテ検討部会を行い、入院カルテは平成27年1月20日に、外来カルテは平成27年3月5日に運用を開始しました。

電子カルテの導入により、診察中のオーダー操作が容易になり、また、患者情報が一元管理されるため各部門で患者状態の把握が可能になりました。さらに、電子化によりコスト算定漏れが少なくなった等、運用面・経営面共に効率化が図られました。

電子カルテを使用した外来診察イメージ



神戸市立医療センター西市民病院

5. 地域医療連携の推進

◆◆地域医療機関との更なる連携◆◆

- ◆医療機関の役割に応じた患者の紹介・逆紹介の推進に引き続き取り組みました。
- ◆地域医療支援病院の承認を受け(平成25年11月～)、連携医向けの冊子「ご利用の手引き」を作成・配布しました。また、平成25年度より開催している「地域連携のつどい」を引き続き開催し、地域医療機関との連携強化に努めました。
- ◆地域医療連携充実のため、病診病病連携アンケートの実施や、地域医療機関への訪問を積極的に行いました。
- ◆オープンカンファレンスを積極的に実施し、地域の医療従事者へ情報提供を行いました。
- ◆FAX予約をより円滑に推進するための体制づくりを行いました。



◆◆在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化◆◆

- ◆介護施設・訪問看護ステーションを中心とした地域医療機関を対象に、「在宅医療支援交流会」を開催し、地域医療連携の推進を図りました。

【退院調整実施件数(件)】

H24	H25	H26
828	964	1,127

◆◆「ダナン産婦人科・小児科病院」の看護師研修サポートが終了しました◆◆

西市民病院では、(公財)神戸国際協力交流センター、神戸市看護大学とともに独立行政法人国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業に参画し、ベトナム・ダナン市の「ダナン産婦人科・小児科病院」における看護師・助産師の知識・技術向上のため、看護師等の派遣及び研修員の受入れを行いました(平成24年度から26年度までの3年間実施)。

フィジカルアセスメント(消化器)や、がんの化学療法の副作用に関する症状緩和等の研修を実施し、平成27年2月の専門家派遣を終え、無事3年間のプログラムを終了することができました。



【ダナン市】ベトナム中部の中心都市であり、出生率が高く、かつ周辺部からの流入人口が多いため、人口増加率が全国平均を上回り、産婦人科・小児科の需要が大きくなっている。しかし、看護師・助産師の知識・技術不足や人手不足により、十分な看護体制が整備されていないため、知識・技術の向上を図ることが急務となっている。

2 病院ごとの取り組み

◆◆数値目標の達成状況◆◆

□ : 年度目標達成

	H25年度実績	H26年度目標	H26年度実績
紹介率	44.5%※1	45.0%※1 (50.0%) ※2	41.7%※2
逆紹介率	73.9%※1	65.0%※1 (70.0%) ※2	91.3%※2
クリニカルパス適用率	49.4%	50.0%	49.8%
単年度資金収支	522百万円	68百万円	80百万円
経常収支比率	104.3%	100.0%	100.3%
病床利用率	88.5%	90.5%	87.7%
給与費比率	54.7%	55.0%	56.3%
材料費比率	22.9%	24.3%	23.3%
経費比率	16.5%	17.6%	16.3%

※1 平成25年度実績及び平成26年度目標の上段は旧基準の地域医療支援病院算定式によるもの。

※2 平成26年度目標の下段（ ）内及び平成26年度実績は新基準の地域医療支援病院算定式によるもの。

◆◆主な指標の推移◆◆

	H25年度実績	H26年度実績	前年度比
稼働病床数	358床		—
新入院患者数	9,059人	9,140人	81人
延入院患者数	115,598人	114,541人	▲1,057人
入院患者数/日	317人	314人	▲3人
初診外来患者数	25,846人	24,744人	▲1,102人
延外来患者数	241,698人	236,348人	▲5,350人
外来患者数/日	991人	969人	▲22人
平均在院日数	12.8日	12.5日	▲0.3日
入院単価	52,083円	53,169円	1,086円
外来単価	11,699円	12,145円	446円
手術件数	3,182件	3,117件	▲65件
医業収支比率	97.3%	95.3%	▲2.0%

優秀な職員の確保と人材育成

1. 優れた専門職の確保と人材育成

◆◆優れた専門職の確保◆◆

- ◆看護職員確保強化のため、引き続き採用説明会への積極的な参加や学校訪問等を実施し、看護職員の確保に取り組みました。さらに、看護職員の借上寮の入寮期間を延長し、入寮者の利便性の向上を図りました。
- ◆豊富な知識をもつ経験者採用を継続し、平成26年度は新たに再雇用制度を構築しました。
- ◆中央市民病院においては、薬剤師とリハビリにおけるレジデント制度を引き続き活用し、西市民病院においては薬剤師レジデント制度を導入しました。

◆◆職員の能力向上等への取り組み◆◆

- ◆医療技術職・事務職の資格取得支援制度・医師の研究休職制度・短期国内外派遣制度等を継続して実施しました。さらに平成26年度は国際貢献活動や大学・大学院等で履修を行う自己啓発等休業制度を新設しました。
- ◆医事課職員研修会を引き続き実施し、年度末に各メンバーが取り組んだ業務や改善事項についての発表会を開催しました。さらに、平成26年度は新たに医療ソーシャルワーカー研修会及び発表会を開催しました。

【主な資格取得支援制度等】

対象職種	制度
医師	研究休職制度 短期国内外派遣
看護職員	看護大学編入学 大学院留学 長期留学・短期派遣
医療技術職員	資格取得支援制度 短期国内外派遣
事務職員	資格取得支援制度

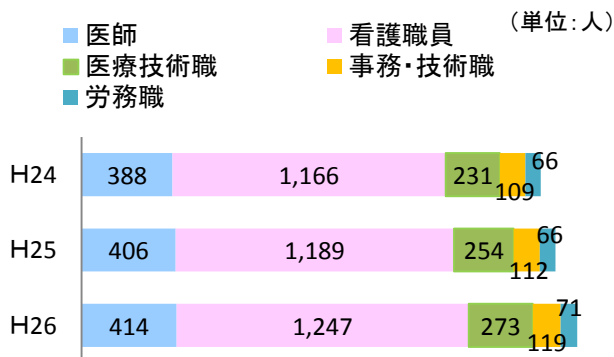
◆◆人材育成等における地域貢献◆◆

- ◆潜在看護師の復職支援対策として研修を開催しました。
- ◆中央市民病院においては、がん薬物療法専門薬剤師の研修施設として他病院から薬剤師の受入れを行いました。

◆◆職員数の推移◆◆

地方独立行政法人の柔軟性・機動性を生かし、医療需要等に応じて年度途中採用も行うことにより、柔軟な職員配置を行うことができました。

その結果、医師・看護師等の職員数は増加し、より良い医療を提供できる体制を整えることができました。



※各年度3月時点の職員数
 ※医師については任期付医師、後期研修医、初期研修医を含む
 ※育児休暇職員は除く

2. 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

◆◆努力が評価され報われる人事給与制度等の導入◆◆

- ◆医師の人事給与制度の再構築に向けた検討を実施しました。
- ◆法人採用職員の係長昇任選考を継続し、優秀な職員を積極的に登用しました。

◆◆働きやすい環境の整備◆◆

- ◆増築(中央市民病院：南棟・北棟、西市民病院：東館)や既存施設改修に向け、院内での検討を行いました。中央市民病院では基本計画の策定や詳細設計を実施し、西市民病院では職員の執務環境やアメニティの改善についても検討を行いました。
- ◆優秀職員表彰を引き続き実施し、職場の活性化・勤労意欲の向上を図りました。また、各部門や各部署における業務発表会についても引き続き開催し、さらに西市民病院においては、病院機能の向上・業務の効率化を達成させるための発表会「改善活動発表会」を開催しました。
- ◆中央市民病院においては、病児保育についての検討を継続して実施するほか、看護補助業務の見直しにより業務の効率化を図りました。
- ◆西市民病院においては、看護職員の制服を変更し、職員の士気向上を図るほか、警察OBの24時間配置を継続しました。

【「これは任せて」発表会】-中央市民病院-

優勝：迫り来るエボラ出血熱 VS 9西病棟
～防げ感染拡大、水際大作戦！！～
-9階西病棟-

2位：吐血時の緊急カメラについて
-画像診断・放射線科-

3位：女性に朗報！～マンモグラフィーの
新たな技術～ -放射線技術部-

【改善活動発表会】-西市民病院-

金賞：腹腔鏡手術に使用する物品見直しによる
コスト削減 -中央手術室-

銀賞：多数負傷者来院時対応訓練を振り返って
-災害対策チーム-

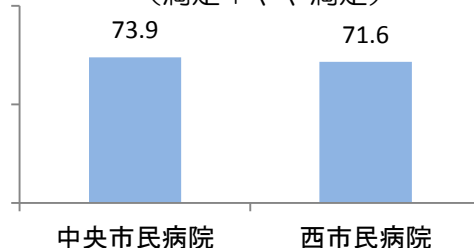
銅賞：輸液ポンプの点検工夫しました
-臨床工学士-

◆◆職員満足度調査結果概要◆◆

職員ニーズを把握し、よりよい執務環境を提供するため、初めて職員全員を対象とした職員満足度調査を実施しました。

調査結果を踏まえ、改善すべき項目について検討を開始しました。

職員満足度調査結果 (%)
(満足+やや満足)



経営状況について

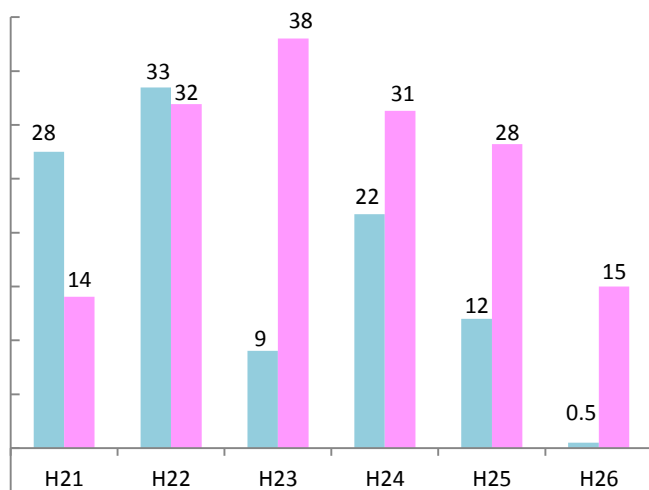
1. 安定的な経営基盤の維持

◆◆平成26年度決算概要◆◆

◆法人全体

平成26年度においては、政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行うことを目標に取り組みました。診療報酬改定や消費税の改正等、病院を取り巻く環境が急激に厳しさを増す中、通常の事業活動による利益を示す経常損益については0.5億円と黒字を維持し、概ね目標通りとなりました。また、単年度資金収支についても継続して黒字を計上することができました。

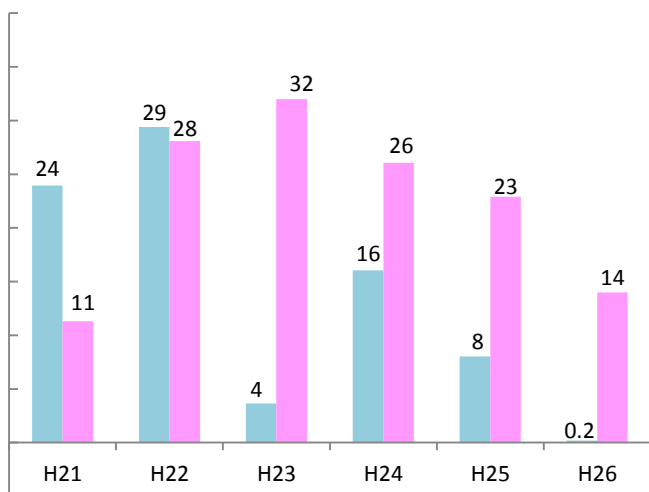
■経常損益 ■単年度資金収支 単位:億円



※資金収支について、有価証券取得による影響は除いております。

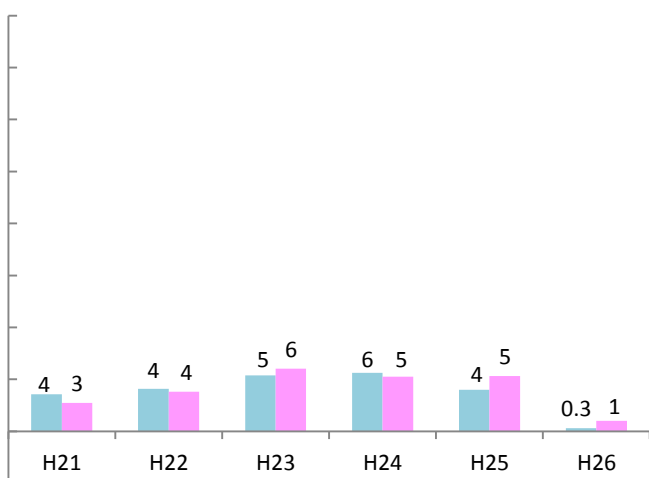
◆中央市民病院

地域医療連携の更なる推進に努めるとともに、新たな診療報酬加算の取得、高度医療を行うことによる診療単価の上昇等により収益を確保しました。また、医療の質向上や医療安全の確保等に十分配慮した上で、積極的な人員の確保を行う等、効率的かつ効果的な体制構築に取り組み、経常利益としては0.2億円の黒字を計上しました。



◆西市民病院

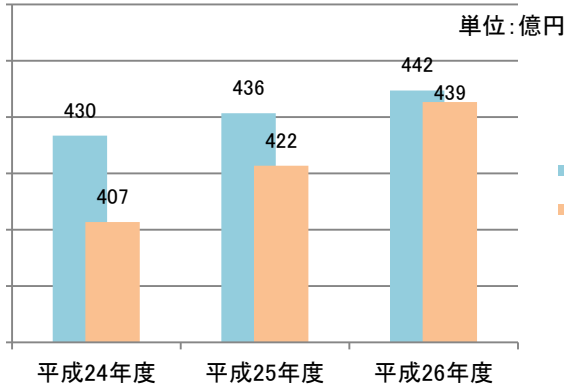
平成25年度途中より算定を開始した地域医療支援病院入院診療加算等の加算を通年で取得したことや外来化学療法に伴う注射料単価の増等によって収益を確保しました。また、医療サービスの質の維持・向上を図りながら、診療材料費や医薬品等について費用の節減に取り組み、経常利益としては0.3億円の黒字を計上しました。



◆◆財務諸表の概要◆◆

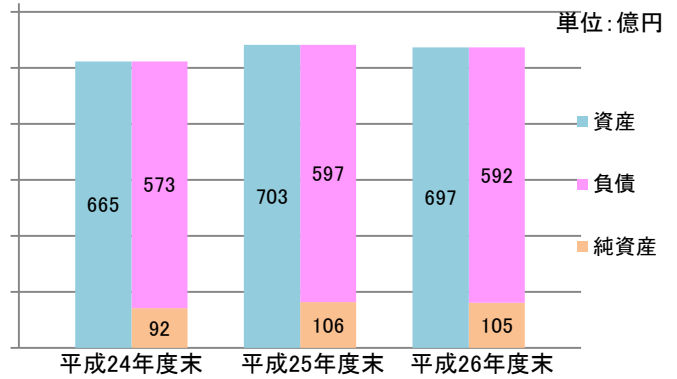
【損益計算書】・・・各事業年度における法人の経営成績を表示
 【貸借対照表】・・・事業年度末（3月31日）現在における法人の財政状態を表示
 【キャッシュフロー計算書】・・・各事業年度の現金及び預金の増減を活動区分別に表示
 【行政サービス実施コスト計算書】・・・納税者が実質的に負担しているコストを表示

損益計算書



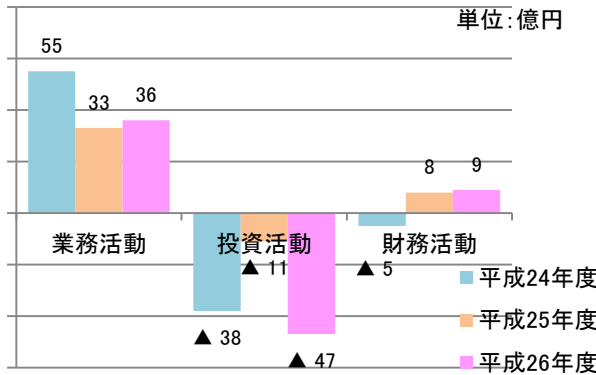
※平成26年度は当期純利益として3億円の黒字を計上しております。

貸借対照表



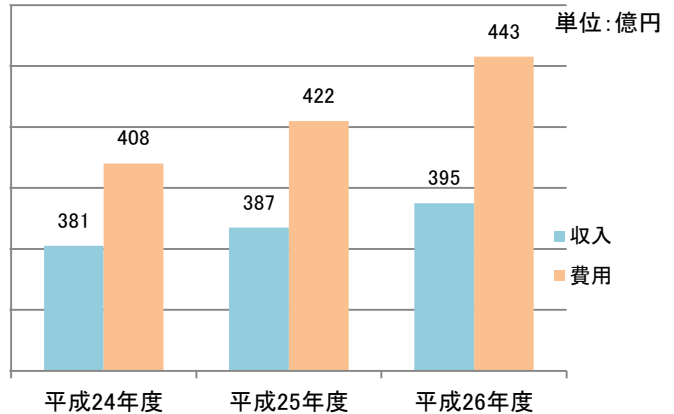
※当期純利益の3億円については、全て利益剰余金（純資産）として積み立てております。

キャッシュフロー計算書



※平成26年度末の現金及び預金残高は定期預金を含め、125億円となっております。

行政サービス実施コスト計算書



※平成26年度の行政サービス実施コストは48億円となっております。

2. 質の高い経営ができる病院づくり

- ◆常任理事会及び理事会等を定期的に開催し、活発な議論を行い円滑な病院運営に努めました。
- ◆適切な予算執行ができていないか確認を行うとともに、増築を含む投資予算について、検討を行いました。
- ◆環境にやさしい病院づくりを目指し、両病院において省エネルギーに取り組みました。

中央市民病院の運営・市関連病院連携・神戸医療産業都市

1. 中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進

- ◆中央市民病院において、PFI業務に関し定期的に連絡会や会議を開催し、業務実施状況や経営改善を図りました。
- ◆経営改善方針に基づき、費用削減率3%達成に向けたPFI業務見直しの協議を行いました。
- ◆平成27年2月には、第6回病院PFI連絡協議会に参加し、他病院のPFI担当者と意見交換を行いました。

2. 市関連病院との連携

- ◆医療機能に応じた紹介・逆紹介の推進に継続して取り組みました。
- ◆市関連病院の連携会議(病院長、看護部長、薬剤部長、医事課長、地域連携部門長等)を引き続き開催し、情報共有や意見交換を行いました。
- ◆中央市民病院・西市民病院間で連携会議を開催し、円滑な患者転送について新たな運用を開始しました。

3. 神戸医療産業都市における役割

- ◆メディカルクラスター連携推進委員会に参加し、BCPを含めたシステム面における提案について検討しました。
- ◆中央市民病院と先端医療センター等との連携会議を定期的に行いました。また、高度医療機器の共同利用や共同研究を実施しました。



神戸市民病院機構の概要

【平成26年4月1日現在】

- ◆法人名：地方独立行政法人神戸市民病院機構
- ◆所在地：神戸市中央区港島南町2丁目1番地の11
市民病院前ビル3階
- ◆設立年月日：平成21年4月1日
- ◆役割：市民病院機構は中央市民病院・西市民病院の2病院を運営しています。

理事会の様子



平成26年度 事業報告書・概要版 用語解説

○がん患者の診療体制 P4

がん患者の状態に応じた適切な治療を提供することを目的として、医師や看護師等、複数の職種が参加する医療機関内で開催される検討会のこと。

○クリニカルパス、アウトカム・バリエーション P5・P11

病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。また、クリニカルパスの中で患者が達成すべき目標のことをアウトカムといい、クリニカルパスに示された治療計画から異なる経過や結果をバリエーションという。

○サーベイランス P5

疾病対策に必要なデータを収集・分析・解釈し、その結果を迅速かつ定期的に還元するために、疾病の発生状況やその推移等を継続的に監視すること。疾病の予防と制御に用いられる。

○市関連病院 P19

神戸市が出資している中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター、神戸リハビリテーション病院及び先端医療センターの5病院を合わせた総称。

○手術支援ロボット「ダヴィンチ」 P4

3次元立体画像（3D画像）や、繊細な鉗子の動きにより従来の手術よりも正確性、安全性、低侵襲性の向上が期待される。平成24年4月より前立腺悪性腫瘍手術において使用した場合のみ保険適用が認められた。

○新興感染症 P3

かつては知られていなかった、新しく認識された感染症で、国際的に公衆衛生上の問題となる感染症のこと。エイズ、エボラ出血熱等がある。

○潜在看護師 P15

看護師の資格を持ちながら、家庭の事情等で看護の現場を離れ、ブランクはあるが再就業を希望している人。

○総合周産期母子医療センター P3

重い妊娠中毒症や切迫早産、脳出血等危険性の高い妊婦と新生児に24時間態勢で対応するため、都道府県が指定する施設。

○第1・2種感染症指定医療機関 P1

一類感染症（エボラ出血熱・ペスト等）や二類感染症（結核・SARS等）等の危険性の高い感染症に対応できる医療機関。

○病院機能評価認定施設 P1・P2

公益財団法人日本医療機能評価機構が行う病院の評価事業。「患者の権利と安全の確保」、「診療の質の確保」、「看護の適切な提供」等の領域及び項目について、病院運営の専門家が評価する仕組みとなっている。

平成26年度 事業報告書・概要版 用語解説

○フィジカルアセスメント P13

問診・打診・視診・触診等を通して、実際に患者の身体に触れながら、症状の把握や異常の早期発見を行うこと。

○ホットライン P3

病院の代表電話とは別に特定の部署に直接繋がる電話のこと。専門の医師が直接対応することにより緊急入院や救急受診に迅速につながることができる。中央市民病院においては、脳卒中、胸痛、産科、小児科がある。

○メディカルクラスター連携推進委員会 P19

産官学の連携による神戸医療産業都市の推進主体として設置された「神戸医療産業都市推進協議会」の専門委員会の一つ。神戸医療産業都市の推進にかかる戦略等の検討や広報活動等を行う。

○レジデント制度 P15

実務経験に根ざした講義と臨床実務実習を通して、高度急性期医療・地域連携に対応した臨床能力を身に付け、チーム医療を実践できる医療技術職員を育成するため作られた制度。2年間の研修期間を設けている。

○BCP (Business Continuity Plan・事業継続計画) P19

災害等のリスクが発生したときに重要業務が中断しないため作る計画のこと。また、万一事業活動が中断した場合でも、目標復旧時間内に重要な機能を再開させ、業務中断に伴うリスクを最低限にするために、平時から事業継続について戦略的に準備しておく計画のこと。

○DPC (Diagnosis Procedure Combination・診断群分類別包括評価) P5

従来の診療行為ごとに料金を計算する「出来高払い」診療報酬請求方式とは異なり、入院患者の医療資源を最も投入した病気とその病状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、指導料等）を組み合わせる請求方式のこと。

○ECMO (Extracorporeal Membrane Oxygenation・体外式膜型人工肺) P3

患者から体外循環ポンプで脱血し、人工肺で酸素化と二酸化炭素の排出を行い、熱交換器で加温して患者へ返血するシステムのこと。肺機能が低下した人に対して行う救命手段。

○PFI業務 P19

平成11年に施行された「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（PFI法）に基づいてなされるもので、民間の資金やノウハウを活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法のこと。

○TAVI (Transcatheter Aortic Valve Implantation・経カテーテル大動脈弁治療) P4

心臓弁膜症の患者に対して、胸を開かずカテーテルを使って人工弁を心臓に装着する治療法。高齢で外科的手術が困難な患者等が適応となる。

○TeamSTEPS (チームステップス) P5

さまざまな職種で構成される医療チームが、特にヒューマンエラー対策として成果を出すためのトレーニング・プログラム。

